

第4学年2組 総合的な学習の時間学習指導案

令和8年1月20日(火) 第5校時

男子13名 女子11名 計24名

指導者 教諭 齋藤 紗也加

場所 4年2組教室

1 単元名 仲間になろう！

～手を取り合える地域を目指して～

2 単元について

(1)第4学年グランドデザイン

校内研究のテーマ

確かな学力を育てる

～本気の課題に向き合い 未来を『そうぞう』する～

児童の実態・思い

本学級の児童は、総合的な学習の時間にも大変活発に取り組んでいる。これまでの学習では、「福祉とは何か？」いうことで調べ学習をしたり、福祉の里へ行って障がい者の方との卓球体験をしたり、施設の方々と話を聞いたりしてきた。授業の中では、国語の「新聞をつくろう」と繋げて福祉について多面的・多角的な視点から模造紙にまとめたり、その中で友達と話し合いながら協働して取り組んだりするようになってきた。学習を進める中で、「お年よりの方にインタビューして、何ができるか考えてみたいな。」「自分達にできることを考えたら、いっしょに交流してみたいな。」という主体的な意見が出ている。しかし、福祉ということについての概念をつくる知識が不足していることで何をすればいいのか迷う所も多く、目的と手段が曖昧になっている。

教材観

(その教材で学べること)

本単元は、児童にとって身近な福祉を材として進めていく。地域には福祉の里の施設や、お年寄りが多く暮らしている。このことから、インタビューをすることで、何が必要で何ができるのかをじっくり考えることができる。また、和光特別支援学校との交流や車椅子・アイマスク体験を通して広い視点から話を聞くことができたり、情報を得たり等することで児童の福祉への概念形成ができていく。小単元1では、調べ学習や身近な施設へ行って福祉について知ることで新しい発見が生まれる、小単元2では知ったことや体験を基に気付いたことや、疑問に感じたことから自分たちにできることはないか想像し実践していく、小単元3では実践したことを基にブラッシュアップして栄で暮らしているみんなが幸せになれる企画を創造する、子供たちが相手の立場になって共に考えることができる教材である。

教師の願いと授業の手立て

この単元を通して、地域の一員として「栄で共に生きよう!」「しあわせにするために、相手の立場になって考えることができたな!」と実感したり、誇らしく思ったりしてほしい。このことから、小単元1では、「福祉」について福祉の里を訪問したり、インターネットや本を使って調べ学習をしたりすることで知ってほしい。小単元2では、小単元1で知ったことを基にしながら、もう一度福祉の里を訪問することで見付けた気付きや疑問から課題を設定し、インタビュー等で集めた情報を整理し考える中で何ができるのかアイデアを交流したり、実際に活動したりすることで、相手の立場から気持ちを想像できるようになってほしい。小単元3では小単元2で相手の立場から想像できる力を発揮し、何が必要で何をすればもっとよくなるのか活動を創り出す力を付けてほしい。

本校の研究テーマである「本気の課題に向き合い 未来を『そうぞう』する」という気持ちを掻き立てられるよう、手立てとして、課題設定の段階で福祉という材に関する身近な実体験から気付いたことや疑問に思ったことを出し合い、どんな総合的な学習の時間にしていきたいのか、どんな地域にしていきたいのかという児童の思いをウェビングなどのシンキングツールを活用して本気のものにする。また、『そうぞう』については、児童が「地域みんなが共に生活できる幸せな栄にする」ことを想像する時間を適宜取りつつ他教科との繋がりも意識させる。「みんなでできる!」「やってみよう!」という前向きな思いから創造できるよう問いかけや価値付けをすることで思考を広げ深め、気付きやアイデアなどの交流が活発に行える場の設定していく。

(2) 「確かな学力」とは

- ア 基礎的・基本的な知識及び技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力
- イ 学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等

(3) 本校の目指す児童像

- 必要感・切実感をもつ子 (入口を子供たちを中心に置いて決める)
- 主体的に学ぶ子 (過程を思いっきり楽しむ)
- 自分の生き方に活かす子 (その続きもわくわくする)

〔目指す子供たちの姿を基にした仮説〕

① 「必要感・切実感をもつ子」

- ・子供たちが行動や実践から単元の学習を始めれば、興味関心が高まり「！」(気付き)や「？」(疑問)を自ら見付けにいき本気の課題をもつだろう。

② 「主体的に学ぶ子」

- ・自分が見付けてきた「！」や「？」を学級で考えて向かう課題やめあてが決まれば安心感が生まれ、対話的になったり、没頭して取り組んだりして主体的に解決へ向かえるだろう。

③ 「自分の生き方に活かす子」

- ・生活科や総合的な学習の時間を通して、社会や自然の一員として既習事項や他教科と合科化しながら何をどのようにしていくか考えたり、自分にとって学ぶことの意味や価値を考えたりしながら、自己の生き方の糧とするだろう。

〔仮説にせまる手立て〕

<仮説①に対する手立て>

- ・「福祉」とは何かを学ぶために地域の福祉施設「福祉の里」を訪問し、障がい者の方やお年寄り、幼児等様々な人と交流をする。その中で、より深く調べたいことや交流したいことを見つけ、共に生きていく心情を育むための課題をもつことに繋げていく。(気付きや疑問から本気の課題を創る)

<仮説②に対する手立て>

- ・授業の導入で、本時のめあてを全員で集まって話し合っ決めて。→(そのどこかで、ゴール〔課題〕が決まっていく)
- ・授業の中で、児童から出たアイデアを積極的に取り上げて対話する。児童の呟きや発言などをキャッチして広げ、「繋がりそうなことがあるかな?」「何か他にできないかな?」「比べてみてどうかな?」等問い返す。また、深めていくような問いかけ「どうしてだろう?」「どうしてそう思ったの?」等も行っていく。さらに、シンキングツールを用いることで自分が集めてきた情報が整理され、「もっと調べたい!」「なるほど!」と没頭する契機となる。→(手段の多様性)

<仮説③に対する手立て>

- ・授業の振り返りをノートに蓄積させることで知識を上書きさせ、「次はどうするか」を問うことで見通しをもたせておく。→(児童の視点で自由に書かせる)
- ・日頃から教室の環境作りをして、総合的な学習の時間に限らず他教科の授業とも結び付ける。→(教科横断的)
- ・教師も子供たちの目線になって一緒に楽しみ、児童の意識をメモしておく。また、児童が考えたこと

に対して、「そうなんだ！なるほどね！」「そのアイデア面白いね！」価値付けをする。→（もっとやってみたいを掻き立てる）

(4) 研究主題との関わり

本校では「確かな学力を育てる～本気の課題と向き合い 未来を『そうぞう』する～」を主題としている。本単元では、福祉のことを知り、「共に生きる仲間」として自ら何ができるかを考え、課題を見つけて主体的に行動したり、表現し発信したりする。また、調べたことや交流を通じた経験から得た知識や技能を基に友達とアイデアを出し合ったり、互いを認め合いながら楽しく生きていくことを想像することで工夫したりする中で自分たちに出来ることを創造して学ぶ意欲の活性化と課題発見から問題を解決する資質や能力等を育てていく。本学級の子供たちは「お年よりの方にインタビューして、何ができるか考えてみたいな。」「自分達にできることを考えたら、いっしょに交流してみたいな。」と意欲的に取り組んでいる児童が多い。体験学習の際は、インタビューを積極的に行う場面も見られ、前向きに取り組む姿が見受けられた。

単元の構成として、「『福祉』とは？～様々な人に目を向けよう～」では興味関心を見つけて課題を決め、福祉のことを知る。「お互いのよさを発見！～地域の方との関わりの中で～」では、インタビュー等を通してお年寄りの方の思いやよさに気づき、お互いのことをより知るために交流会を開く。「仲間になろう！～手を取り合える地域を目指して～」では、第一回の交流会のよかった点と改善点を見つけ、交流会がよりよいものとなるよう、これまでの情報や活動を整理していく。

児童は毎時間の学習を振り返り表現することで、自己効力感や自己有用感を実感することができると考える。

3 単元の目標

「福祉」について知ったり、見学や体験をしたり、地域の障がい者や高齢者との交流を通して、互いに助け合うことでみんなが幸せに暮らしていけるということの良さに気づき、関わり方を考えたり、仲間になるための方法を生み出したりしながら、生活しようとする。

4 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	<p>① 福祉とは何か、見学やインタビュー、資料を通して、互いに助け合うことでみんなが幸せに暮らしていけるということを理解している。</p> <p>② 見学や体験で感じたことや疑問に思ったことを、質問したり、興味をもったことについて調べたりして情報を得ることができる。</p> <p>③ 目的に応じて道具や ICT 機器を工夫して扱いながら試したり練習したりしたことを生かし、参加者と適切に関わっている。</p>	<p>① 地域で暮らす障がい者や高齢者の思いから、自分たちにできることは何か課題をつくり、解決の見通しをもっている。</p> <p>② 地域で暮らす障がい者や高齢者の思いや自分たちにできることについての必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。</p> <p>③ 地域で暮らす障がい者や高齢者の思いから考えた自分たちにできることを考え、実現に向けて観点に合わせて情報を整理し考えている。</p> <p>④ 地域ので暮らす障がい者や高齢</p>	<p>① 課題解決に向けて自分にできることに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>② 自分と違う意見や考えを生かしながら協働して学び合おうとしている。</p> <p>③ 世の中の様々な人々について知る中で、自分はどのように関わっていくか考え、交流できた自分の成長に自信をもち、活動を振り返ろうとしている。</p> <p>④ 地域の高齢者と仲間になりたいという目標の実現に向けて、繰り返し遊んだり、練習</p>

	<p>④福祉の観点から新しい見方・考え方ができるようになったのは、共に生きる人々の気持ちを理解し、探究的に学習してきたことの成果であることに気が付いている。</p>	<p>者と仲間になるために、知ったことと交流方法を関連させながら分かりやすく表現している。</p>	<p>したりしようとしている。</p>
--	--	---	---------------------

5 活動の流れ (☆活用するシンキングツール・※横断する教科と単元名・◎考えられる表現の方法)

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>小単元名「福祉」とは？ ～様々な人に目を向けよう～(20時間)</p> <p>【小単元の目標】 世の中の様々な人々に目を向け、福祉について理解を深める。</p> <p>【課題設定】 ○世の中にはどんな人々がいるのか考える。 ※道徳「ええことをするのは、ええもんや！」</p> <p>【情報収集】 ○障がいのある人たちなどについて、インターネットや本から情報収集をする。</p> <p>【整理・分析】 ○障がいやバリアフリーについて調べた情報から考える。</p> <p>【まとめ・表現】 ○分かったことを新聞やロイロノートを活用してまとめる。</p> <p>※国語「新聞を作ろう」 ◎新聞、パンフレット</p>			<p>小単元名：お互いのよさを発見！ ～地域の方との関わりの中で～(30時間)</p> <p>【小単元の目標】 高齢者に目を向け、福祉について見方を広げる。</p> <p>【課題設定】 ○地域の高齢者と関わり、互いのよさを見つける。</p> <p>【情報収集】 ○体験学習やインタビューを通して、高齢者について知る。</p> <p>【整理・分析】 ○得た情報を基に交流会を企画する。</p> <p>☆座標軸</p> <p>【まとめ・表現】 ○高齢者との交流会を行う。</p> <p>※国語「もしものときにそなえよう」 ◎交流会</p>			<p>小単元名：仲間になろう！ ～手を取り合える地域を目指して～(20時間)</p> <p>【小単元の目標】 高齢者との関わりの中で互いを認め合うことができる。</p> <p>【課題設定】 ○これまでの体験活動や交流から、自分たちができることを考える。</p> <p>【情報収集】 ○前回の交流会で良かった点と改善点を見つける。</p> <p>☆ベン図</p> <p>【整理・分析】 ○より工夫できることを考え、交流会を企画する。</p> <p>◎交流会</p> <p>【まとめ・表現】 ○高齢者との交流会パート②を行い、報告書にまとめる。</p> <p>◎レポート</p>				
<p>【地域人材・関係機関】 明日チャレ、和光特別支援学校、福祉の里障がい者センター、福祉の里老人福祉センター、栄地区の高齢者の方々</p>										
<p>小単元①で目指す子供たちの姿 障がい者の方との交流や資料を通じて、福祉について理解を深めたり、積極的に関わったりしようとしている。</p>			<p>小単元②で目指す子供たちの姿 高齢者の方との交流やインタビューを通じて、福祉について見方を広げたり、積極的に関わったりしようとしている。</p>			<p>小単元③で目指す子供たちの姿 仲間になるにはどうしたらよいか考え、意欲的に課題に取り組み、今後も関わろうとしている。</p>				

6 単元の指導計画・評価計画 全70時間

<p>探究の過程</p>	<p>○主な学習活動 ・学習内容 「 」予想される児童の反応</p>	<p>◇指導上の留意点 (配慮・手立て) ★評価 評価方法 発 発言分析 記 記述分析 つ つぶやき分析 行 行動観察 作 作品分析</p>	<p>●活用する資料、外部人材 ※関連教科等</p>
<p>課題設定</p>	<p>小単元1 「福祉」とは?～様々な人に目を向けよう～ ○オリエンテーション ・単元のねらい、内容や計画を確認する。 ○「福祉」について、今知っていることを話し合う。 「障がい者、老人、幼稚園の子がいるよ」 「いろいろな人がいるね」 「まずは、障がい者の方のことを、調べたいな」 ○課題設定をする。 ・障がい者についての、自分の課題を決める。</p>	<p>★思① 発 つ</p>	<p>※道徳「ええことをするのは、ええもんや！」</p>
<p>情報収集</p>	<p>○身体障がい者・聴覚障がい者・視覚障がい者についての情報を調べる ・本やインターネットで調べる。 ・福祉の里で、視覚障がい者卓球を見学・体験する。 ・福祉の里で、点字本を見る。</p>	<p>◇自閉症・ADHD傾向の児童への配慮から、身体障がい者・聴覚障がい者・視覚障がい者に絞る。 ★思② 発 記 ★知② 発 記</p>	<p>●福祉の里障がい福祉センター</p>
<p>整理分析</p>	<p>○調べたことを整理する。 ・言葉やイラスト、写真を使い、ロイロノートやパンフレットにまとめる。</p>	<p>★思③ 記 行 つ ★主② 発 行</p>	
<p>まとめ表現</p>	<p>○調べたことを整理する。 ・模造紙でまとめる。 「福祉について、もっと色々なことを知りたいな。」</p>	<p>★思③ 記 行 つ ★主③ 発 行 ★思④ 作 発</p>	<p>※国語「新聞を作ろう」</p>

<p>課題設定</p>	<p>小单元2 お互いのよさを発見！～地域の方との関わりの中で～</p> <p>○お年寄りと関わる。 ・福祉の里児童センターや地域のお年寄りと交流する。 「インタビューに答えてくれて嬉しかった。」 「一緒にお喋りをしたことが楽しかった。」 「インタビューしてみたいな。」 ○課題を見つける。 「得意なことを聞いてみたいな。」 「何に不自由を感じるのだろうか。」</p>	<p>◇児童の思いを汲み取り、実際に体験したいもの・行いたいことの中から決定していく。</p> <p>★思①</p> <p>発 っ</p>	<p>●福祉の里老人福祉センター</p>
<p>情報収集</p>	<p>○自分が知りたいことについて情報を集める。 ・家族や地域の人にインタビューをする。 「家族が得意なことはけん玉と折り紙だ。」 「私は走ることが得意だけれどおじいちゃんは苦手みたい。」 ・車いす体験を行う。 「段差があると大変だな。」 「車いすは、声をかけながら動かさないと危ないな。」</p>	<p>★思②</p> <p>行 っ</p> <p>★知①</p> <p>行 っ</p>	<p>●栄地区の高齢者の方々 ●福祉の里老人福祉センター ●あすチャレ ●和光特別支援学校</p>
<p>整理分析</p>	<p>○インタビューしたことや体験したことを整理する。 「おじいちゃんでも得意なことで苦手なことがあるんだ。」 「折り紙が得意なことを知らなかった。どんなものが折れるのかな？」</p>	<p>★思③</p> <p>行 っ</p> <p>★主①</p> <p>行 記</p>	
<p>まとめ表現</p>	<p>○もっと知りたいことや、やってみたいことを書き出す。 「もっとたくさんのお年寄りの方と交流したいな。」 「自分の得意なことを教えたり教わったりしたいな。」</p>	<p>★思④</p> <p>行 発</p>	<p>※国語「もしものときにそなえよう」</p>
<p>課題設定</p>	<p>○話し合いをし、課題を設定する。 「お年寄りともっと仲良くなりたいな。」 「自分が出来ることを伝えたい。」</p>	<p>★思①</p> <p>発 っ</p>	

	「お年寄りの人に折り紙を教わりたい。」		
情報収集	○どのような会にするか考える。 ・互いに楽しめるような内容を考える。 「けん玉が得意って言っていたよ。教わってみたいな。」 「一緒にスポーツをしたいけど、どんなルールだったらできそうかな？」	★思② 行 つ ★知① 行 つ	●栄地区の高齢者の方々 ●福祉の里老人福祉センター
整理分析	○どのような会にするか考える。 ・情報収集したものの中から取捨選択する。 「このルールだと怪我をしてしまうかも。」 「これなら全員が楽しめるね。」	★思② 行 つ ★主④ 行 つ	
まとめ表現	○ニコニコ会を開く。 「お年寄りの方も自分たちも、同じく楽しむことができた。」 「相手のために考えたことで、皆が楽しく過ごせた。」 「もっと別の交流ができそうだな。」	★知③ 発 行 ★思④ 行 記	●栄地区の高齢者の方々 ●福祉の里老人福祉センター

課題設定	小单元3 仲間になろう！～手を取り合える地域を目指して～		
	○課題を設定する。 「もう一度交流会をしたいな。」	★思① つ 発	
情報収集	○更により交流会となるように情報を収集する。 ・第1回の感想用紙の集計をする。 ・参加者にインタビューを取る。	◇参会者にアンケートを依頼する。 ★思② 記 つ	●栄地区の高齢者の方々 ●福祉の里老人福祉センター
整理分析 (本時)	○どのような会にするか考える。 ・感想用紙やインタビューで出た意見を取り入れて会をよりよくする。	★思③ 行 つ 記	●栄地区の高齢者の方々 ●福祉の里老人福祉センター
	○考えたことや感想用紙やインタビューで出た意見を基にリハーサルを試みる。 「ルールにアイデアを付け足すともっと楽しめるかも。」 「もう少し簡単にすると、おじいちゃんやおばあちゃんも楽しめるかな。」	★主④ 行 つ	

	「これなら全員が楽しめるね。」		
まとめ 表現	○ニコニコ会を開く。 「お年寄りの方も自分たちも、同じく楽しむことができた。」 「相手のために考えたことで、皆が楽しく過ごせた。」 ○今年度の総合を振り返る。	★知③ 発 行 ★思③ 行 記 ◇振り返りで、「互いの良い所が分かった」「互いに助け合いたいな」「今後も関わりたい」という仲間意識をもつことが書けるような発問・板書をする。 ★知④ 発 記	●栄地区の高齢者の方々 ●福祉の里老人福祉センター

7 本時の学習計画

(1) 本時の目標

○第一回交流会での成果や課題をもとに、第二回の交流会をより良い内容にするための考えを持つことができる。

(2) 目指す子供の姿（評価規準）

・課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えることができたか（思考・判断・表現）

(3) 本時の展開（53/70時間）

○学習活動 ・ 予想される子どもの思考と反応	★評価規準（評価方法） ☆指導の留意点、手立て	時間
<前時まで> ○第1回「ニコニコ会」を行って良かった点や改善点を想起する。	☆掲示物や写真で想起しやすいように教室環境を整えておく。	3
本時のめあて 第二回の交流会に向けて、より良くするための方法を話し合おう。		
① 共に楽しむための視点を出し合う。 ・ルール ・道具 ・場の工夫	☆「だれ」「何のためにやるのか」を確認し、黒板に貼るなど意識できるようにする。 発問：もっと仲良くなるにはどのようにしたらよいだろうか。	5
② 共に楽しむ方法を考える。 ○話し合ったことを全体で共有する。 ルール	☆話し合いがスムーズに進むように、自分の考え・班の考え・第一回交流会のフィードバックを整理した情報を手元に置いておく。	30

<ul style="list-style-type: none"> ・ルールが難しかったから、分かりづらかったな。 <p>場の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごろく、床でやったら疲れちゃっていたな。 ・折り紙に集中しすぎて、会話ができなかったな。 <p>道具</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カップが小さくて、入りにくかったな。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆集めた情報を整理している中で、比較したり、分類したり、関連付けたりしている児童を価値付ける。 ☆児童の意見を、整理しながら板書し、意見を出しやすくする。 ☆児童の変容を、分かりやすくするために、マークを活用する。 <p>★課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えることができたか。思③（記述・つぶやき・行動）</p>	
<p>③ 本時のふりかえりをする。</p> <p>○ふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の班の人たちにアドバイスをもらえたのでそれを取り入れてよりよい会にしたい。 ・友達と意見を出し合い、ルールを決めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ふりかえりにはノートを使用し、自分が学んだことを自由に書けるようにする。 	7

6 板書計画

1 / 20 (月) ② 第二回の交流会に向けて、より良くするための方法を話し合おう。

ルール	場の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 🧐 ・ルールが難しかったから、分かりづらかったな。 😊 ・分かりやすいように、言葉とポスターで伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 🧐 ・すごろく、床でやったら疲れちゃっていたな。 🧐 ・折り紙に集中しすぎて、会話ができなかったな。 😊 ・机やいすを用意する。 😊 ・教え合いをすると、会話がふえるな。
道具	
<ul style="list-style-type: none"> 🧐 ・カップが小さくて、入りにくかったな。 😊 ・レベルごとに、カップの大きさを変える。 	
<p>😊 前より楽しくなりそう。みんなと仲良くなれそう。どっちも笑顔になれたらうれしいです。</p>	